**2050年の目指すべき将来像について**

**資料５**

**１．将来像**

世界中の人々が知恵を出し合い、これからの世界を共創していく場となる2025年　　大阪・関西万博を経て、2030年に達成されるSDGｓの価値観が大阪から世界に広がり、ひとを救い、地球を守る取組が社会全体に浸透している。

資源循環分野においては、環境、社会、企業統治の観点から企業投資を行う「ESG　　　投資」が進み、できるだけ少ない資源で最低限必要な物が生産されるとともに、シェアリングビジネスが浸透し、持続可能なライフスタイルが全ての府民に定着することで、　　資源の循環的な利用が自律的に進む社会が形成され、廃棄物の排出量が最小限に抑えられている。

また、生じた廃棄物は、ほぼ全量が再生資源やエネルギーとして使用され、製品として購入されることによって循環し、最終処分量も必要最小限となっている。

さらに、プラスチックごみはリユース又はリサイクル、それが技術的経済的な観点等から難しい場合には熱回収も含め100%有効利用し、海に流出しないよう適切に管理され、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」が達成されている。

**２．社会イメージ**

**（１）ライフスタイル（府民）**

| 視　点 | 現行計画 | 新たな記載（例） |
| --- | --- | --- |
| 物の購入 | ○ごみになりにくく、使用後の  リサイクルが容易で長期間  使用できる再生資源を用いたリサイクル製品を優先購入  ○レンタル等の利用により、物  を所有することから機能のみ  所有する考えが広がる | ○使い捨てプラスチックの使用が必要最小限  （マイバッグ、マイボトル、マイ容器の普及等）  ○再生可能資源（バイオマス素材等）を使用した  製品の普及  ○ICTやビッグデータを活用したシェアリングが  広く普及 |
| 物の使用 | ○修理（リペア）や機能追加  （グレードアップ）による  長期間使用や、交換会を活用したリユースが広く普及 |  |
| 物の廃棄 | ○家庭ごみの減量化や資源物の  適切な分別リサイクルに積極  的に取り組む | ○「すべてが有用な資源」という考え方が浸透  ○ポイ捨てを許さない社会気運が醸成され、不用意  に捨てられるごみがなくなる。 |

（２）ビジネススタイル（事業者）

| 視　点 | 現行計画 | 新たな記載 |
| --- | --- | --- |
| 製品の設計・生産 | ○原材料には、再生資源や再生  可能な資源を選択  ○ごみになりにくく、使用後のリサイクルが容易な設計、　長寿命化への配慮が徹底 | ○製品のライフサイクル全体で環境負荷の最小化を考慮（モジュラーデザインによる製品組立等）  ○IoTやAI、ビッグデータを活用し、生産・流通・使用の情報をリアルタイムで把握でき、生産工程や生産量、生産時期が最適化  ○耐久性の高い商品の普及（住宅等） |
| 長期間  使用 | ○販売製品の長期間使用のサポート体制が整備（リペア、グレードアップ、改修等） |  |
| 使用済み製品のリサイクル | ○リース、レンタルが広く普及  ○拡大生産者責任に基づく製造事業者による使用済製品の回収・再利用が広く普及  ○循環資源に関する情報の開示、データベース化により、業種を越えた効率的なリサイクルシステムが整備 | ○シェアリング、サブスクリプション、個人間取引等のビジネスが広く普及  ○質の高い分別・再生利用により繰り返し利用  　（プラスチックのケミカルリサイクル、センサー  を活用した効率的な回収・分別・リサイクル等） |
| その他 |  | ○サーキュラー・エコノミー型ビジネスが定着 |

（３）適正処理（行政、事業者、府民）

| 視　点 | 現行計画 | 新たな記載 |
| --- | --- | --- |
| 廃棄物の適正処理 | ○社会全体に不適正処理を許さない機運が熟成され、不法投棄や不適正保管が未然防止  ・排出者による適正処理の徹底  ・関係機関による監視網整備  ・土地所有者の自主管理の徹底  ・廃棄物処理業者の優良化　等 | ○　IoTやAI等による廃棄物の収集運搬・処理システムや不法投棄の監視の効率化  ○　高齢者や障がい者等の社会的弱者にもやさしい廃棄物処理サービスの提供 |
| リサイクル、熱利用 | ○廃棄物の処理施設では、資源化施設が設置され、再使用・再生利用した後、素材としてリサイクルできないものは焼却時に熱利用 | ○　AIによる効率的な自動選別が可能になり資源化量が向上 |
| 最終処分量の削減 | ○経済活動で使用されたものは、多くが循環利用  ○どうしてもリサイクルできないものは廃棄物として処分 |  |